平成３０年度認定（No.８４）

農 業 名 人

マツブサ栽培名人　　山口（やまぐち）　勇夫（いさお）

昭和７年生まれ　　箕輪町在住

ひと房に想いをのせて

箕輪町長岡新田で生まれ育ったが、昔は箕輪の山林に自生し、古来より滋養強壮の妙薬として珍重された『マツブサ』を里で安定して栽培できないか研究を重ねてきました。

『マツブサ』は、果実がブドウの房のように垂れ下がり松脂のような匂いがある蔓性の植物で、長岡新田地区がダム（みのわダム）用地となり、現在の場所で生活するようになった平成５年頃、有志を集め会員数３６人で『マツブサ研究会』を発足し、山で採取した木を自宅の庭や畑に植え、栽培研究を続けてきました。

平成７年には日本で初めて人工栽培による『マツブサ』を原料としたワインの試作品が完成。平成９年、前年の試作品を活かして 10,000 本を完成し販売開始した。以降は年毎に収穫量にばらつきはあるがワインを製造し、町の特産ワインとして販売し好評を得ていた。平成 12 年に会の名称を「マツブサ研究会」から「箕輪町マツブサ会」に改称し、初代会長として『マツブサ』を里地で栽培することにより生産拡大を図り、もって地域特産物の開発と商品化により、中山間農村地域と農林業の活性化を図る目的に向け現在５軒で栽培しているが、その収穫量の２/３を山口さんが担っています。

現在は、製品をジュース「マツブサの雫」として販売している。

近年では、韓国から『マツブサ』の栽培に関する視察団も訪れるなど、この世界の第一人者として今後の活躍が期待されています。